ひだまりの活動を通して

活動先：特定非営利活動法人　ひだまり

1.　活動先の紹介

非営利活動法人（以下 NPO 法人）ひだまりは、半田市を拠点とし、主にデイサービスや喫茶ひだまりなどを運営しています。デイサービスでは、利用者の方の声を大切にし、大正琴や造形あそびなどを行っています。また、それらの講師は地域のボランティアから募り、完成した作品は地域の郵便局に飾らせていただくなど、機関や住民さんからの理解、交流へとも繋がっています。

喫茶ひだまりでは、半田市立図書館の一角をお借りし、障がいを持つお母さん方が主体となって活動しています。お客様の憩いの場となるように、お手ごろな価格で、季節に合ったメニューを提供しています。また、月に数回はその子どもたちがオーダー、配膳などをしており、社会へ出る一歩となる他、住民さんからの障がい者の理解にも繋がっています。他にも、書道教室や居宅介護支援事業など地域の方々が安心した生活が出来るよう、活動を展開しています。最後に右下に挙げたねこのイラストは、ひだまりのキャラクターであり、職員さんや利用者さん含め皆様から愛されています。

2.　当初の活動目的や目標

私たちが活動をしていく上での、目的は主に３つ挙げられます。

１つ目は、利用者さんに主体となっていただき、私たちが昔の知恵や遊びなどを教えて頂くということです。なぜならば、普段は職員さんや私たちが企画したレクレーションに参加しているため、受身の姿勢が見られるからです。２つ目は、ひだまりで行っている様々な事業に関わることで、地域における役割を知ることです。現時点の段階で、私たちは NPO 法人と地域の関係が掴めていなかったからです。そして３つ目は、ひだまりは多くの事業に取り組んでいるということで、様々な世代の方々と交流することから、私たち自身の視野を広げていくということです。大学内の生活だけでは、関わる世代が一定に限られてしまします。地域に根づいている NPO 法人であるからこそ、実現できると考えたのでこのような目的を設定しました。目標は目的とほぼリンクしていますが、私たちだから出来ること、自身も楽しむことを大切にしていきました。

3. 自分たちの活動

私たちは、主にデイサービスと喫茶ひだまりで活動をさせていただきました。

デイサービス

デイサービスでは利用者の方とコミュニケーションを取ることやレクリエーション、お茶だし、掃除などをしました。利用者の方とは、最初どのように話しかけたらよいか分からず不安もありましたが、職員の方が「ただ利用者の方の傍にいるだけでも利用者の方は安心する」ということを知り、話すことだけがコミュニケーションではないことを学ぶことができました。職員の方は、利用者の方に対しても優しく笑顔で話しかけている様子や利用者の目を見ていたのがとても印象的でした。活動が夏の暑い時期であったため、職員の方は利用者の方に水分を多くとってもらうことを意識しているようにも見えました。

また、私たちが実際に企画した活動も行っていきました。

☆うちわ作り

うちわ作りでは、うちわキッドを使い簡単に作成できるようにしました。利用者の方に、塗り絵したものを貼り付けたり折り紙で作った作品を貼り付けました。利用者の中には、作業するペースが違うことや作業することに疲れているのか分かりませんが、私たちに任せてしまう利用者の方に対して最初は困りました。しかし、利用者の方と一緒に作業していくうちに利用者のできることを手伝ってあげれば良いことに気づきました。

☆風鈴作り

風鈴作りでも、利用者の方に簡単に作成できるよう事前準備に力を入れました。ペットボトルを切り取り紐を通した上、好きな絵柄を貼っていただけるよう、様々なイラストを作りました。当日は、事前準備や職員さんのサポートがあったため、スムーズに進んでいきました。自分のペースに合わせて想い思いの風鈴を作っていて、完成した時の利用者さんの笑顔や「自分で作ったものはいいわ」などのお言葉をいただきました。

☆郷土料理

郷土料理作りでは煮かけうどんとフルーツ白玉を作りました。事前に試作を行い、前日準備として買出しをしました。当日はお昼の時間に間に合わせる関係もあり、調理師の方にもお手伝いしていただきました。職員の方々の分も含め、計 16 名分を学生 2 人と調理師さんで作り、完成したものをその日のお昼ご飯として利用者さんたちと一緒に食べました。利用者さんが食べやすいように小さく野菜を切ったり、体に良い食材を用いること、環境に優しい洗剤を使うなど調理場に立ち、何気ない心づかいを肌で感じることができました。出来た料理は好評で安心しましたが、皆で一緒に食べるからより御飯が美味しく感じられるのではないかとも思いました。

また、私たちが企画したレクリエーション以外にも坊主めくりやくずし将棋、紙粘土などを通して、利用者の方と交流できたのでよかったです。利用者の方とレクリエーションなどをして交流していくうちに、昔の出来事（戦争、恋愛など）や半田市の歴史（ごんぎつね）など色々聴くことができました。また、ひだまりには多くのボランティア（書道の先生、紙芝居、手話通訳）の方の協力により成り立っていることがわかりました。

喫茶

喫茶ひだまりでは、接客などのお手伝いをしました。喫茶には、親子連れや常連の中年男性、子どもなど幅広い年代の方に利用されていることがわかりました。私たちが活動しているときに、職場体験として特別支援学校に通う子どもと一緒に活動しました。障がいをもつ子どもに対してどのように関わればよいかが分かりませんでした。また、感謝グループ（障がいをもつ母親の集まり）の企画に参加しました。企画では、半田空の科学館でプラネタリウムを見ました。

しかし、喫茶で企画していた郷土作りは、障がいをもつ子どもたちと一緒に作りメニューとして出すつもりでありましたが、都合によりデイサービスでの提供となってしまいました。

その他にも半田市で行われたNPOマネジメントセミナーに参加しました。そこでは、設立段階であるいくつかの事業所の代表者が来て、立ち上げた経緯や友人とのつながりが大切など貴重なお話を聴くことができました。

<u>その他の活動</u>

地域の子どもたちやお母さん方が参加している、書道教室にも関わっていきました。子どもだけでなく、お母さん方も交流の場になるそうで、このような機会があるからこそ、地域のネットワークが広がっていくと思いました。書道の際は真剣に作業に取り組み、終わったとあとにはお茶をのみ一息つくなど、ひだまりらしいのんびりした雰囲気で行われていました。

４．活動における課題

活動における課題は、２つあります。

１つ目は、日程や活動内容を早めに決め、活動先の方と話し合っておくことです。今回、活動先の予定と私たちの考えていた内容が噛み合わず、直前で変更になり、活動内容を変更することになりました。活動先の方からの提案もあり、最終的には成功させることができました。このことを通して、早めに決め、話し合うことで活動内容を充実したものにできたのではないかと思います。

２つ目は、分からない事を分からないままにして、問題が起きたときに職員さんに聞かなかったことです。利用者さんとの関わりの中で、私たちが戸惑いを感じたら、利用者さんも同じように戸惑いを感じ、両者ともに良い思いはしません。私たちは、後日、職員さんに対応の仕方を聞き、解決することができますが、利用者さんは、解決できないまま心残りになります。このようなことにならために、分からないときには、その場で聞き、解決につなげることが大切だということが分かりました。

５．活動を通して学んだこと

活動を通して私たちが学んだことを４つ挙げたいと思います。

まず１つ目は企画を実行するということについてです。グループで企画を考える段階から活動を始めていったことで、企画を考え、事前の準備をし、実際に企画を実行することの難しさを学ぶことができ、協力の大切さを学ぶこともできました。そして、活動を行うにしても、企画を実行するにしても、事前の準備や活動先との連絡調整、事前の打ち合わせがとても大切だということを学びました。

２つ目はひだまりの地域における役割についてです。ひだまりのデイサービスや喫茶で活動を行わせていただき、職員の皆さんからのお話も聞かせていただくことができました。例えば地域の郵便局とひだまりとのつながりがあるということや、喫茶に来て下さるお客様との交流している様子などをみて地域との関わりを実際に感じることがで

き、地域におけるひだまりの役割を学ぶことができました。

３つ目はその場の雰囲気を大切にすることです。活動中に利用者の方々と交流する際、無理にあわてる必要はなく利用者の方と一緒にいるという空間・時間を重視していくことの大切さを学びました。また、無理に話そうとするのではなく相手の話を聴こうとすること、こちらから気持ちを引き出そうとする努力が必要ということなどを職員の方から教えていただいて、実際の活動中にも感じることができ、学ぶことができました。

４つ目は分からないことについてはすぐに聞くということです。活動中に起った出来事や対応の仕方に困った場合、その場で誰かに聞くということ、また、それができない場合でもその日のうちに聞くということがどれほど大切なことなのかも学ぶことができました。

６．活動先への提案

私たちが活動後考えた活動先への提案は、3つあります。

１つ目は、ひだまりの存在を地域に知ってもらうことです。

なぜなら、活動を通して郵便局や喫茶などでひだまりに対する認知はされていると感じました。しかし、具体的なサービスが浸透していないと思いました。そこで、「ようこそ　ようこそ」という広報を一人暮らし高齢者世帯に配布するなどして少しでも憩いの場があるということを知ってもらいたいと考えました。

２つ目は、男性利用者を増やすことです。デイサービスを利用している方は、女性が圧倒的に多く、男性利用者の少なさに関心を持ちました。男性は、女性に比べると人との関わりをつくっていくことが苦手だからではないかと考えます。しかし、男性の中には、女性と同じようにデイサービスを利用したいと思っている方もいると思います。したがって、男性の方も利用しやすい環境づくりを行ってはどうかと考えました。

７．今後の研究テーマ

＜メインテーマ＞

一人暮らし高齢者の生活をより良くするには

＜サブテーマ＞

１．一人暮らし高齢者が増えた背景と現状
２．一人暮らし高齢者を取り巻く制度、政策
３．自治体での取り組みと課題
４．新しい試み
５．まとめ

私たちのグループが、この内容を取り組もうと考えた経緯は、ひだまりのデイサービスの利用者さんに一人暮らしの方が多かったことです。デイサービスに来るまで誰とも

会話をしないという方がいるという話を聞き、一人暮らし高齢者の生活について知りたいと思ったからです。

参考文献は以下の通りです。

・直井　道子，2003,「一人暮らし高齢者の指標」『保健の科学』第 45 巻　第 12 号，882－886
・奥山　正司，2010,「大都市における一人暮らし高齢者と家族的支援及び地域的支援－高齢者のみ世帯の増加を背景として－」『人と国土』9 月号，18－22
・川村　範昭，2008,「大都市部での一人暮らし高齢者の対策（東京・新宿区）」『前衛』191－194